

第137期 中間報告書

株 主 通 信

2017年4月1日から2017年9月30日まで



2019年で創業100周年
記念ロゴが決定しました!

株式会社 西島製作所

証券コード：6363

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、このたび当社第137期中間決算（2017年4月1日から2017年9月30日まで）を終えましたので、ここに第137期中間報告書をお届け申し上げます。
また、中間配当金につきましては、1株当たり9円とさせていただきます。
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

代表取締役社長 原田耕太郎

創業100周年記念ロゴが決定しました！



テーマ「つながる笑顔」

- これからも永続的に社会に貢献するとともに、成長していくことを願い、100を無限記号(∞)で表現。
- ∞をポンプと笑顔にすることで、私たちの仕事(ポンプ)が人々の笑顔に直結することを表現。
- 色は、「水」「進歩」「安全」を表現するために「青」とし、これからもお客様と当社が永遠につながる水の輪をイメージ。

当社は、2019年8月1日に創業100周年を迎えます。そこで、100周年記念事業委員会を立ち上げ様々な活動を始めていますが、上のマークは、その第一弾として決定した100周年の記念ロゴです。社員公募で集まった130点以上ものデザインの中から最終候補案5案に絞り、社員全員の人気投票で選ばれました。

西島製作所は、1919年に創業したポンプのパイオニア。

お客様のご満足を最優先に、多様化、高度化するニーズに応え、ポンプを通して社会に貢献してきました。

これからも、より豊かなサステナブル社会の実現に貢献するため、ハイテクポンプを中心とした4つの事業を展開し、長年の経験とノウハウを活かした製品・技術・サービスにおいて、安心・安全、省エネソリューションを提供していきます。

HIGH-TECH PUMPS

ハイテクポンプ
事業

発電や海水淡水化、化学、上下水道、一般産業などのプラントの高度化・多様化するニーズにお応えするポンプを開発・提供しています。また、『ポンプdeエコ』をスローガンに高効率ポンプでプラントの省エネに貢献しています。



PROJECTS

プロジェクト
事業

ポンプ単体の提供だけでなく、ポンプ設備全体のEPC（設計・調達・建設）を行うコントラクターとして、上下水道、かんがい、排水などのインフラ整備・拡充にも貢献しています。



SERVICE SOLUTIONS

サービス
事業

ポンプ設備をより長く、効率的にお使いいただくために、通常のメンテナンス業務だけでなく、ポンプが最大限の性能を発揮できるよう、様々なケースに応じた最適なソリューションを提案しています。



RENEWABLE ENERGY &
ENVIRONMENT

新エネルギー・環境
事業

風力発電や小水力発電の導入に関し、設計・施工・メンテナンスに至るまで、総合的にお客様をサポートし、再生可能エネルギーの利用による低炭素社会への転換に貢献しています。

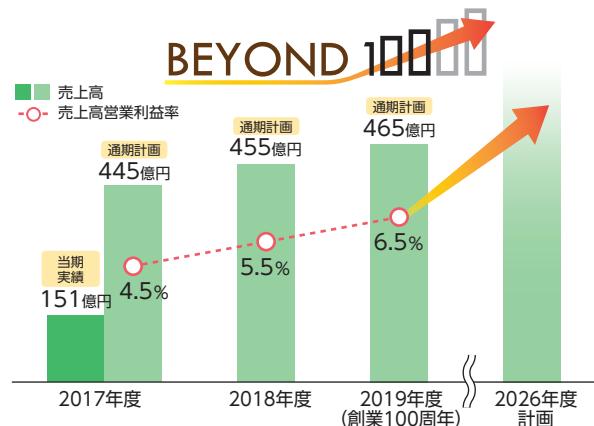


当社グループは、2017年5月に、今年度を初年度とした3カ年の中期経営計画を策定しました。

最終年度に当たる2019年度が、ちょうど創業100周年に当たるため、さらに長期を見据えた計画として「BEYOND100」と名付け、具体的な取り組みとして掲げた経営施策を一つひとつ着実に進めています。

今回は、中でもとくに当期で堅調に推移しているコアポンプの開発、受注（①イノベーション力）と投資家様からの注目度も高いサービス事業の一部（②サービスカ）、そして働き方改革（③人材力）などを中心に、進捗状況を報告いたします。

	2019中期経営計画			
	2017年度		2018年度	2019年度
	当期実績	通期計画	通期計画	通期計画
受注高	238億円	440億円	460億円	500億円
売上高	151億円	445億円	455億円	465億円
営業利益	▲8億円	20億円	25億円	30億円



2019中期経営計画の経営施策

世界をリードする「省エネ」「安心・安全」の製品／ビジネスモデルを開発

①イノベーション力

- コアポンプ（水・電力・インフラ）の製品力強化・新製品導入
- IoT/3D技術を活用したサービス市場向け新システムの開発

外部環境の変動に影響されない強い企業体質の構築

グローバルカ

- グローバル最適生産体制の確立（日本・中国・インドネシア・インド）

生産性・業務品質カ

- 設備の新鋭化による生産性向上及び生産能力拡大
- プロセスイノベーションの定着化と、その継続的改善

②サービスカ

- 地域カバレッジの拡大（米国・東南アジア）
- SV（スーパーバイザー）の育成、増員
- 売上高に占めるサービス比率：35%以上
- サービス対象機器の拡大

しなやかな企業インフラ（仕組み・人）の構築

ガバナンスカ

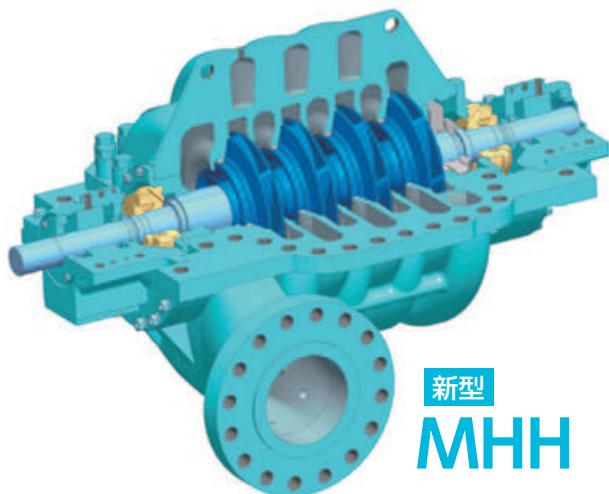
- 取締役会の実効性の向上
- 業績連動型の報酬制度の導入
- 海外含む子会社管理の充実

③人材力

- 働き方改革の推進
- ダイバーシティの推進（女性・外国人が働きやすい環境の整備）
- グローバル展開に対応する人材の確保と育成

1 イノベーション力

RO法海水淡水化プラント向け新型高圧ポンプを開発 サウジアラビアとシンガポール向けに受注



新型

MHH

効率
アップ

信頼性
アップ

メンテナンス性
アップ

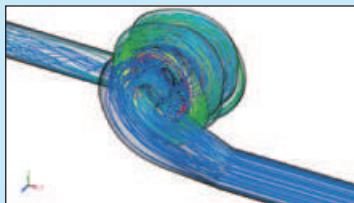
市場動向と顧客ニーズに合わせて、 製品ラインナップを拡大

RO法海水淡水化プラントにおいて、RO膜に高圧で海水を供給するポンプはプラントの心臓部を形成する重要機器の一つです。このポンプは、トリシマが長年得意としてきたハイテクポンプでこれまでに数多くの納入実績があります。今回この高圧海水供給ポンプにおいて、お客様のニーズにより確実に応えるために、従来の製品ラインナップをさらに強化する新型の「MHH」を開発しました。

最新鋭の解析コンピュータ／解析技術を用いて設計開発した新機種では、さらなる高効率化を実現し、省エネルギーという点で、これまで以上の貢献が期待できます。さらに、安全性やメンテナンス性にも配慮した設計となっており、顧客満足度の高いポンプとなっています。

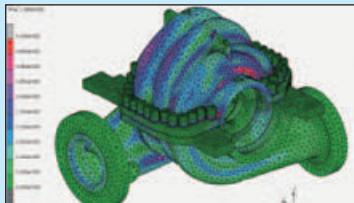
すでに今期、サウジアラビアとシンガポールの海水淡水化プラント向けに受注し、現在製造を開始しています。

新開発のキーポイントは？



■ ポンプ効率アップ

CFD（数値流体力学）解析により、水の流がよりスムーズになるよう水力部形状を開発し、効率がアップ。



■ 信頼性アップ

最新の構造解析技術を用いてポンプ全体の剛性アップ及び回転体の安定性向上を図り、低振動化を実現。

RO法海水淡水化プラントとは？

RO (Reverse Osmosis) 膜とは、日本語では逆浸透膜と呼ばれ、表面に無数の穴が開いた特殊な膜で、ここに水を通すことで塩分をろ過します。穴といっても1~2ナノメートルと肉眼では見えないほど微小なため、非常に強い勢いで水を吹き付けなければ水が通らず、上記のような高圧ポンプが必要となります。

海水淡水化プラントといえば、従来は海水を蒸発させて塩分を取り除く蒸発法が主流でしたが、設備が大型となるため莫大な電力費がかかることがネックでした。一方、RO法なら、蒸発法に比べて小型化でき、電力費とCO₂排出量を抑えられることから、昨今ではこちらが主流となってきています。

トリシマは、どちらでも、海水淡水化プラントで使われる主要なポンプのすべてを製造できる世界でも数少ないメーカーとして実績と信頼を築いています。



2 サービスカ

トリシマ・サービス・ソリューションズ・アジア (TSSA) 受注増加に伴い、サービス工場を移転、拡張

シンガポールをはじめ、フィリピンやマレーシアなどのポンプのサービス拠点として、2012年に開設したトリシマ・サービス・ソリューションズ・アジア (以下、TSSA)。

近年の受注増加に伴い、また今後の着実な成長を期待できることから、より広いスペースに移転することとなりました (移転時期は、2017年12月から2018年3月頃までを予定)。新しいサービス工場は、現在の4倍超の広さで、より効率的、生産的な活動が可能となります。

シンガポールは、当社が1979年に初の海外駐在事務所 (現シンガポール支店) を開設して以来、長年に亘り数多くのプロジェクトを手掛け、600台以上のポンプを納入している重要なマーケット。今後も、さらなる顧客サービスの向上に努めていきます。

■ 4.3倍のスペースに拡大し、生産効率アップ!

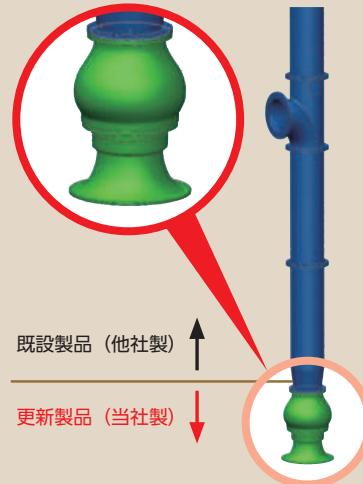
■ 当社顧客の多いジュロン島、トゥラス工業地帯のより近くに!



マレーシア Sultan Idris Shah II ウォーター・トリートメント・プラント向け 河川水取水ポンプをTSSAがREDUで更新

シンガポールの隣国、マレーシアの浄水施設より、河川水取水ポンプの更新を受注しました。

今回更新する既設ポンプ2台はオランダのポンプメーカー製で、設置後約25年が経過しており、インペラ (羽根車) が損傷するなど老朽化が進んでいました。本来であれば、すぐにでも新品2台に更新したいところですが、予算の都合上、1台は当社の新品ポンプに更新、もう1台は既設ポンプを流用し、心臓部である水力部だけを当社独自の高付加価値サービス、REDUで更新。アップグレードしながらコストダウンを実現しました。



REDUとは?



Re Engineering & Design Upの略で当社独自のサービス。ポンプ設備全体の仕様の見直し、材料の最適化、老朽化した部品の復元、改善など、一つひとつのケースに応じて最適なソリューションを提供します。

ポンプの心臓部である水力部だけをトリシマ製に更新

3 人材力 トリシマの「働き方改革」。さまざまな取り組みがスタート

少子高齢化が進む日本で多様な働き方を認め、一億総活躍社会を実現していくために、いま国をあげて進められている働き方改革。当社でも、さまざまな取り組みを始めています。

仕事と子育ての両立をサポートする企業内託児所「バードランド」

当社では2012年から、社宅の一部を利用した企業内託児所を運営し、7:30～18:00（19:00まで延長可）の間で従業員の子どもの対象に定期保育、一時保育を受け付けています。

保育料は、民間の保育所より2～3割安く設定。またこのたび、子どもの増加により、スペースも2倍に拡張。より手厚い保育を実施できるよう保育士の数も増やしました。子どもを持つ従業員の仕事と子育ての両立をサポートしています。



男性社員初の育児休暇を取得 「子育ての大変さが分かり、いい経験になりました」

ポンプ製造部の男性が、当社では男性社員初となる育児休暇を取得しました。妻は同じく当社経理部に所属。このケースに続き、加えて2名の男性社員が育児休暇を取得し、男性でも“育休”を取りやすい環境が整ってきています。

Q なぜ育休を取得しようと思ったのですか？

A 妻も私も地方出身で周囲に頼れる人がいないため、妻一人での子育てや家事は大変だと思ったからです。

Q 育休を取得することに、ためらいはありませんでしたか？

A 上司をはじめ、周囲も理解してくれていたので問題はありませんでした。

Q 育休を取得していかがでしたか？

A 子どもの世話や家事を同時進行で行い、睡眠が十分にとれないなど、妻の大変さを身に染みて感じる事ができたので取得してよかったです。また、男性の育休取得の「道」を切り拓き、「男性でも育休を取得できる」と周知することができました。とくに、共働きの男性はぜひ育休を取得してみてください。



厚生労働省
認定マーク
「くるみん」取得

従業員の仕事と子育てを両立できる環境をサポートする企業として、2017年7月19日、厚生労働省大阪労働局より、認定マーク「くるみん」を取得しました。

「くるみん」とは、厚生労働省が次世代育成支援対策推進法に基づき、「子育てサポート企業」として認定する制度で、当社では2014年4月1日から2017年3月26日までの取り組みが認められての認定となりました。



カスタマーファーストで、とことんお客様に向き合い、ニーズに合った製品とサービスを提供しています

Q 世界のポンプメーカーと比べて、トリシマの強みは何ですか？

「製品」と「人」です。まず「製品」に関しては、お客様のご要望に応じて、高効率で信頼性が高く、メンテナンスしやすいポンプを提供していること。これには自信があります。もちろんそれで満足するのではなく、つねに研究開発を繰り返し、よりよいソリューションを提供しています。

また、「人」に関して、私たちは国も言語も文化も違うスタッフの集まりですが、トリシマとして、「お客様に最高のポンプを届ける」という共通の目標を持っています。その中で、自分が何をしなければならないかを認識し、各自の役割を果たしていく最高のチームだと思っています。

Q ここ数年、原油価格の下落等により海外、とくに海水淡水化プラント市場は厳しい状況が続きましたが、どう切り抜けましたか？

たしかに厳しい状況が続いていますが、現在動いている案件もあれば、将来の可能性もあります。私たちのお客様となるプラントメーカーが苦戦しているときこそ理解を示し、よりよい関係を築いてきました。実際それで今期、海水淡水化プラント向けのポンプも受注できています。

また、この機会にサービス事業にも力を入れていますし、上下水道市場も発電市場もあります。外部環境を嘆いても仕方ありませんから、つねに状況に応じて最善の策をとることが大事だと思っています。

Q 当期の受注活動は、どうですか？

競争環境は依然として厳しいですが、底は抜けた感があり、実際、前年同期に比べてもずいぶん回復しました。アジアや欧州、米国など世界中のプラントメーカーを



お客様に、海水淡水化プラント、発電プロジェクトなどで成果を上げています。お客様に対して、つねに最適な価格で競争力のある製品を提供していく。この戦略に変わりはなく、当下期、そして来期以降も計画に沿って確実な活動を続けていきます。

Q 海外営業本部の今後の成長戦略を教えてください

これまで述べてきた通り、最高の製品をベストプライスで届けていくことです。そのためには、技術力も販売力もつねに向上させていかなければなりません。また、サービス事業のさらなる拡充も必須です。当面の具体的な目標としては、北米拠店の開設です。そして、トリシマの強みである「人」も、よりよい人材の雇用、育成を通して強化していきます。

Topics ① 「さわかみファンド」 運用報告会2017に参加

2017年9月2日(土)、大阪のマイドームおおさかで開催された、さわかみ投信株式会社主催の「さわかみファンド」運用報告会2017に参加しました。

当運用報告会は、さわかみファンドに投資されている個人投資家の皆様とファンドに組み込まれている企業をつなぐイベントで、4回目となる今回は約1,800名が来場。普段はあまり表に出ない B to B 企業が多いだけに、皆様非常に熱心に情報を集められており、「ポンプの力のすごさに驚きました」「応援しています。頑張ってください」など、当社もさまざまなご意見を直接いただき、とてもいい機会となりました。



「いま、なぜ“ポンプ”なのか」をテーマに 当社社長が記念講演

当社、原田社長による1時間の記念講演では、「ポンプとは何か?」「どんなところで使われているのか?」といった基本的な説明から、当社がポンプを通してどのような貢献をしているのか、「安心・安全の提供」「省エネルギーの推進」をキーワードに、ポンプメーカーとしての役割と使命を語りました。

トリシマで働く女性を紹介するミニセミナーも

製造現場から、技術本部、海外営業本部など、当社さまざまな部署で活躍する女性たちを紹介。ビデオメッセージで、皆様にお届けしました。



Topics ② タイ バンコクで開かれた「Power Gen Asia 2017」に出展



2017年9月19日(火)～21日(木)の3日間、タイのバンコクで開催された「Power Gen Asia 2017」に出展しました。Power Genは、発電業界において世界最大規模の展示会で、アジアの他にも、欧米や中東、アフリカなど世界各地で開催されており、世界中からさまざまな企業や関係者が集結する一大イベントです。

とくにタイは、当社が数多くの発電所向けボイラ給水ポンプを納入しており、2016年にはサービス拠点も設立。いまもっとも注力しているマーケットの一つとして、地元のお客様や関係者にトリシマの技術力やサービス力をアピールしました。

経営成績

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、堅調な雇用情勢により底堅く推移する個人消費がみられる米国経済や、欧州中央銀行の金融緩和策などにより緩やかながらも景気回復がみられる欧州経済、各種政策効果もあり持ち直しの動きがみられる中国経済などに支えられ、全体として緩やかな景気回復傾向で推移したものの、原油需要低迷から発生した産油国の景気減速や、トランプ政策の進捗の遅れ、英国におけるEU離脱問題、各地で火種を抱える地政学的リスクの増大などにより、依然として先行き不透明な中で推移しました。

わが国の経済においては、有効求人倍率が1倍を超える雇用環境、緩やかながらも回復基調にある世界経済に支えられた輸出の増加や比較的安定した為替水準などに支えられ緩やかな景気回復が見られたものの、社会保険料の増加による可処分所得の減少による個人消費の低迷や地政学的リスクの増大など、先行き不透明な中で推移しました。

このような状況下、当ポンプ業界は、世界人口増加に対応するため水資源を中心としたインフラ整備や、エネルギー政策の見直しなどによる火力発電所の増加、各地で発生している異常気象による集中豪雨対策など、ポンプ需要は底堅く推移しています。しかしながら、世界経済の景気回復は緩やかなものに留まっており、先行き不透明感から設備投資意欲も力強さに欠ける状態が続いており、国内外における受注環境は厳しい状況で推移しました。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の受注高は23,799百万円（前年同四半期比2,260百万円増加）となりました。これを需要先別に見ますと官公需は8,609百万円（前年同四半期比1,345百万円減少）、国内民需は4,497百万円（前年同四半期比233百万円増加）、外需は10,692百万円（前年同四半期比3,373百万円増加）となりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、15,112百万円（前年同期比2,109百万円減少）を計上いたしました。

利益面については、当第2四半期連結累計期間の営業損失は798百万円（前年同四半期は営業損失220百万円）となり、売上高営業利益率は△5.3%となりました。

経常損失は、営業外収益として持分法による投資利益31百万円が発生した結果、702百万円（前年同四半期は経常損失576百万円）となり、売上高経常利益率は△4.6%となりました。

親会社株主に帰属する四半期純損失は、805百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失546百万円）となり、売上高四半期純利益率は△5.3%となりました。また、1株当たり四半期純損失金額は29.70円となりました。

通期の見通し

平成30年3月期の業績予想については、平成29年度を初年度とする3か年の経営目標の通り、受注高44,000百万円、売上高44,500百万円、営業利益2,000百万円、経常利益2,500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,800百万円で、変更はございません。

平成29年度第2四半期連結累計期間 需要先別の売上高構成比



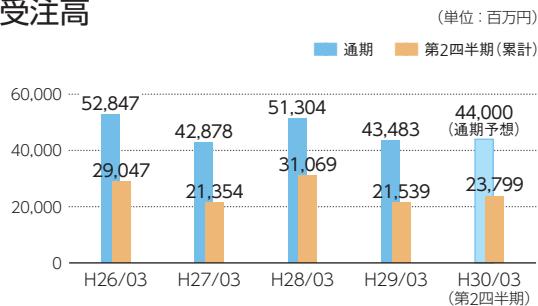
平成29年度第2四半期連結累計期間 需要先別の受注高、受注残高 (単位: 百万円)

需要先	受注高	構成比 (%)	受注残高	構成比 (%)
官 公 需	8,609	36.2	19,592	34.3
民 需	4,497	18.9	5,650	9.9
外 需	10,692	44.9	31,920	55.8
計	23,799	100.0	57,164	100.0

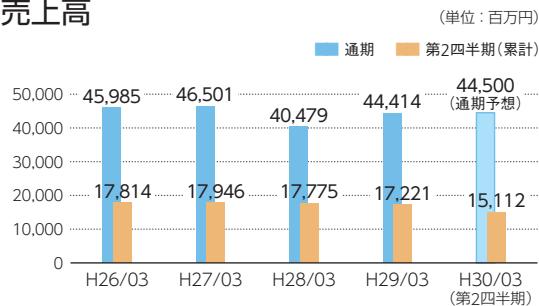
(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務ハイライト

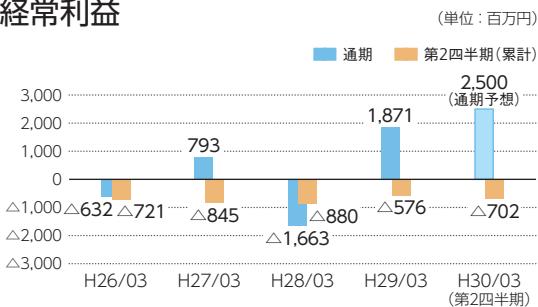
受注高



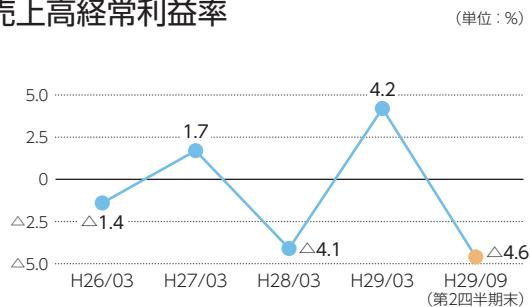
売上高



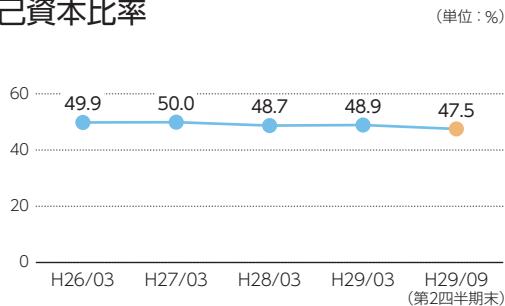
経常利益



売上高経常利益率



自己資本比率



1株当たり純資産額



四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前第2四半期末 平成28年9月30日現在	前 期 末 平成29年3月31日現在	科目	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前第2四半期末 平成28年9月30日現在	前 期 末 平成29年3月31日現在
【資産の部】				【負債の部】			
流動資産	44,605	40,037	45,318	流動負債	24,140	18,848	26,200
現金及び預金	12,517	8,741	10,930	支払手形及び買掛金	6,524	6,328	9,457
受取手形及び売掛金	18,174	18,439	23,667	短期借入金	6,876	3,859	7,453
商品及び製品	287	244	273	未払法人税等	162	128	337
仕掛品	9,874	8,389	6,885	前受金	6,052	5,036	4,381
原材料及び貯蔵品	1,845	1,903	1,837	賞与引当金	817	762	771
前渡金	647	536	417	製品保証引当金	706	625	847
繰延税金資産	673	490	655	工事損失引当金	1,525	324	957
その他	976	1,528	1,024	その他	1,475	1,782	1,994
貸倒引当金	△ 392	△ 235	△ 371	固定負債	10,912	11,314	7,805
固定資産	22,705	20,897	22,401	長期借入金	8,662	9,772	5,668
有形固定資産	9,692	9,800	9,937	役員退職慰労引当金	17	15	16
無形固定資産	1,546	1,863	1,784	退職給付に係る負債	321	297	320
投資その他の資産	11,466	9,233	10,679	その他	1,910	1,229	1,799
投資有価証券	10,708	8,434	9,922	負債合計	35,052	30,163	34,006
その他	1,401	1,114	1,319	【純資産の部】			
貸倒引当金	△ 644	△ 315	△ 562	株主資本	29,045	28,681	30,233
資産合計	67,311	60,934	67,719	資本金	1,592	1,592	1,592
				資本剰余金	7,601	7,817	7,769
				利益剰余金	21,723	20,941	22,774
				自己株式	△ 1,873	△ 1,670	△ 1,904
				その他の包括利益累計額	2,922	1,560	2,891
				その他有価証券評価差額金	2,160	752	1,832
				繰延ヘッジ損益	△ 73	312	6
				為替換算調整勘定	518	282	743
				退職給付に係る調整累計額	316	213	307
				新株予約権	130	108	118
				非支配株主持分	160	420	470
				純資産合計	32,258	30,771	33,713
				負債純資産合計	67,311	60,934	67,719

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期(累計) 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	前 期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
売上高	15,112	17,221	44,414
売上原価	11,326	13,249	33,876
売上総利益	3,786	3,972	10,538
販売費及び一般管理費	4,584	4,192	9,075
営業損益(△)	△ 798	△ 220	1,462
営業外収益	270	323	762
営業外費用	174	680	354
経常損益(△)	△ 702	△ 576	1,871
特別利益	—	152	168
特別損失	14	35	103
税金等調整前四半期 (当期)純損益(△)	△ 716	△ 460	1,936
法人税等	105	49	277
四半期(当期)純損益(△)	△ 822	△ 509	1,659
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純損益(△)	△ 16	37	126
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損益(△)	△ 805	△ 546	1,532

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

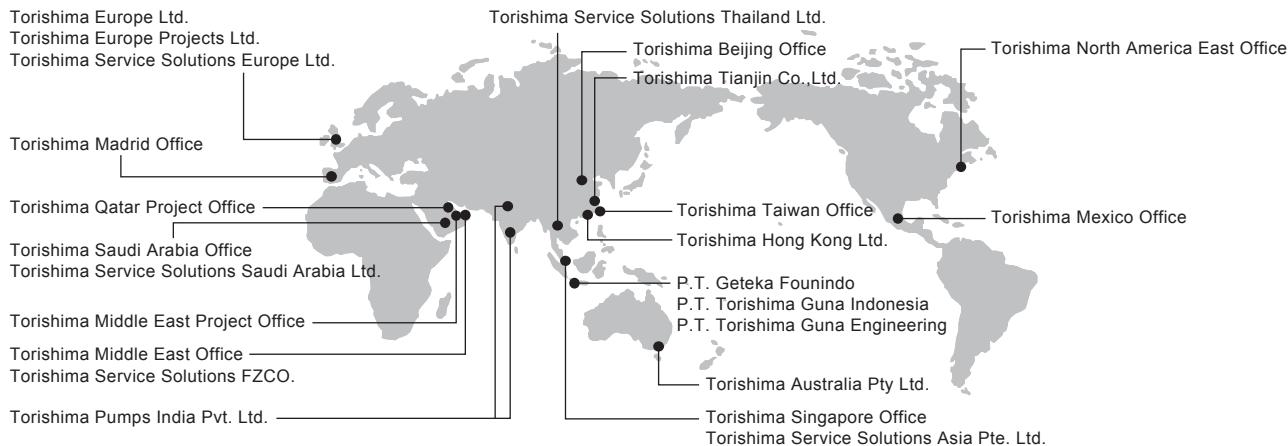
科 目	当第2四半期(累計) 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前第2四半期(累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで	前 期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	584	3,305	6,496
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 701	1,556	1,376
財務活動による キャッシュ・フロー	1,708	△ 2,914	△ 4,140
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 47	△ 458	△ 36
現金及び現金同等物の 増加額	1,544	1,488	3,696
現金及び現金同等物の 期首残高	10,871	7,175	7,175
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	12,415	8,663	10,871

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

商号	株式会社 西島製作所	[国内拠点]	
本社所在地	大阪府高槻市宮田町一丁目1番8号	支社	東京
創業	1919年8月1日	支店	大阪、九州(福岡市)、名古屋、札幌、 仙台、広島、高松
設立	1928年4月20日	営業所	沖縄(浦添市)、佐賀、横浜、和歌山
資本金	1,592,775,030円	出張所	宇部、熊本、徳島
従業員数	連結1,602名 単体867名	工場	本社工場(大阪府高槻市) 九州工場(佐賀県武雄市)

[海外拠点]



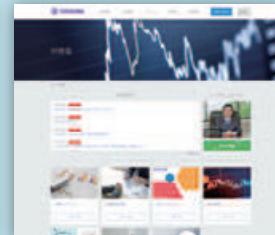
WEBサイトのごあんない

当社のWEBサイトでは、「企業情報」、「IR情報」、「最新ニュース」
「製品情報」などの各ページにおいて、当社のさまざまな情報を発信しています。

>>> スマートフォンでもご覧いただけます。

西島製作所

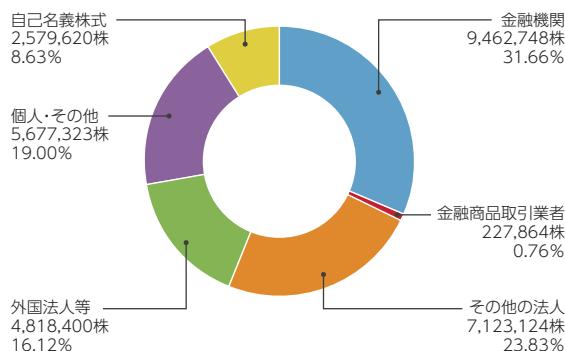
検索



株式の状況

発行可能株式総数 60,000,000株
 発行済株式の総数 29,889,079株
 株主数 6,106名

[株式の所有者別分布状況]



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
公益財団法人原田記念財団	2,810	10.2
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	1,964	7.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,705	6.2
株式会社りそな銀行	1,286	4.7
株式会社三井住友銀行	1,266	4.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	966	3.5
株式会社栗本鐵工所	652	2.3
株式会社日阪製作所	619	2.2
THE BANK OF NEW YORK-JASDECTREATY ACCOUNT	572	2.0
三精テクノロジーズ株式会社	551	2.0

(注) 当社は自己株式2,579千株を保有していますが、上記大株主からは除いています。また、持株比率は自己株式を除いて計算しています。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月下旬開催
 基準日 定時株主総会：3月31日
 期末配当金：3月31日
 中間配当金：9月30日
 その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒541-8502
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 電話：0120-094-777 (通話料無料)

公告の方法 電子公告により当社WEBサイトに掲載
 ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

[株主の皆様へのお知らせ]

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっています。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっていますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。



株式会社 西島製作所

〒569-8660 大阪府高槻市宮田町一丁目1番8号
TEL 072-695-0551 (大代表)



この報告書を印刷する際の電力は
100%グリーン電力(風力)により
賄われています。

©Shinzi Katoh/そらべあ®RFG